

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームしおかぜ
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	新潟県村上市824-2
記入者名 (管理者)	本間 みね子
記入日	平成 20 年 11 月 17 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	開所当時に作成した理念に20年度から、「地域」という文語を付け加えた。	地域という文語を入れる事で職員一同が地域に根ざした支援を一人ひとり考え、行動ができるように付け加え取り組んでいます。
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	目に付く場所に掲示し、全職員が理念を共有、実践できるように日頃から職員同士話し合っている。	時々話し合う事もあり一人ひとり認識されてきているのでこれからも今以上に理念を共有していきたい。
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	家族会開催時、又運営推進会議に説明を行い浸透に努めた。	地域の方まで浸透していないので機会があった時に伝えていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	散歩時挨拶したり立ち話しなどを行い付き合いを深めている。いつでも遊びに来て下さるように声掛けをしている。又集落内の散歩をしていると道案内役を引き受け1時間ぐらい一緒に散歩し交流を図った。	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	保育園、小学校の運動会見学、病院際に参加している。本年度は、集落の祭りで子供みこしが施設まで来所され交流を図った。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	話し合う事もあるが取り組むことまでいかない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、一部の職員は理解しているが職員全員が意義を理解できるように話し合いを行い、職員全員で評価を行った。		改善が必要な時は話し合いを持ち取り組んでいく。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね2ヶ月に一回は、会議を開催し、状況、説明、困っている事などを話し合い、協力的に相談に乗ってくださる。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者はとても協力的で電話連絡等で困っている事など相談にのって貰っている。又時々来所されている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	一部の職員は、把握しているが全職員は理解していない。		学ぶ機会があったら積極的に研修に参加していきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講習会などに参加し、参加できない職員には、伝達をおこなって虐待がないように皆で注意を払い、防止に努めている。		これからも虐待の防止に周知徹底していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際にきちんと説明を行い理解をして貰っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営会議には、利用者1名参加して頂き意見等を聞く機会を設けている。又いつでも意見を聞ける体制を取っている。</p>	<p>自分から本当の気持ちが言えない方もいるので言い易い環境、早めに察知できるように配慮していく。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>特変事は早急に連絡をしている。金銭については、毎月使用金額、残金明細を送付している。日常の健康、暮らしぶりなどは面会時に報告、遠方に住んでいる方には、電話連絡や文書で報告している。又写真も面会の頻度を見ながら送付している。職員の移動、退職に関しては面会の時伝えていますが全員の家族までは報告をしていない。</p>	<p>今後もどんな小さなことでも報告していき意見を聞きながら取り入れたい。又職員の異動及び退職については面会時のみなので今後全員の家族に浸透するように努めて行きたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>本年1月から意見箱の設置を行った。現在要望、苦情なし。又来所持等にも伺うようにしている。家族会開催時に意見等を聞きましたが特にないとのことでした。</p>	<p>利用者、家族から率直な意見が聞けるよう面会時などに頻回に聞いて行きたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>意見ノートに記載したり、意見を聞き皆で話し合いの場を持ちできる所は行っている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>柔軟な対応が出来るように緊急時には連絡を取り合い実施している。いつも話し合いを行い全スタッフが理解し、協力し合っている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動、退職者が出ないように皆で努力をしている。職員が変わっても特に支障はないが時々思い出す利用者もいるが職員が冷静に対応しているのでダメージを受けることがない。又新職員の方にもすぐとけこんで貰っている</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全ての職員が研修に参加出来るように考慮している。参加出来る時は、積極的に参加している。又参加できない方の為内部で伝達講習会を行っている。		市主催の研修会も全員の職員が参加出来る時は意欲的に出席している。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本年6月より管理者の集いを儲け悩みや困った事などを話し合う機会をもった。(おおむね2ヶ月に一回) 又年2回村上市のグループホーム職員の交流会を行いネットワーク作りをしている。積極的にさんかしている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	個別面説にて個々の悩みなどを聞く機会を設けている。又気づきノートなどに記入することもある。運営者は遠く離れているので協力病院の方が工夫や環境づくりに協力。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の実績や努力を踏まえ気持ちよく働けるようにしている。健康面に対しても健康診断、予防接種等実施、質の向上を上げる為研修にも快く参加できる体制をとっている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談に来た時はゆっくり話を聞き安心してもらっている。ほとんどの利用者が自分から訴える事が難しい為行動や、発した言葉等から理解し受け止め対応している。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族からの要望があったときは出来る限り実現できるように努力をしている。信頼関係が築けるように極力話し合いをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要と思っている時はきちんと見極めをして希望通りに対応出来る様になりたい。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	他のサービスを利用希望者は現在いない。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩であり相談や昔の話を聞き毎日楽しく生活している。楽しいときには一緒に笑い、悲しい時は一緒に悲しみ日々の生活をお互いに支えあう関係を築いている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族に相談しながら本人を支えていけるように本人、家族、職員一対となる関係を築いている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	第一回目の家族会で盆踊り大会を実施し、とても良い関係が築け、思い出が残るように支援している。又外出、外泊も出来るように家族にお願いをしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族が遠方において外泊など出来ない利用者には、自宅周りや思い出の場所に時々行き思い出して頂いている。又馴染みの方の話を持ち出し思い出話をすることで関係が途切れないように支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	全員毎日仲良く生活できるようにスタッフが中に入りおやつ、食事、集団体操などホールで一緒に過ごし孤立のないように気配りをやっている。なるべく一人にならないように皆と会話の時間を多く取り利用者同士が安心して談笑出来るように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	亡くなられて終了された方1名いましたが家族が遠方に住んでいる為会う機会が今の所ない。該当するような時は関係を断ち切らないように付き合いを大切にしていきたい。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分で希望、意向を伝えられる方には、よく話を聞き出来るだけ希望に添うようにしている又伝える事が出来ない方の場合は行動、表情、言葉から察知し本人の意向や思いを把握し出来るだけ希望に添うように努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時本人、家族からの聞き取りにて概ね把握できているが、日々の関わりで細かな事が発見でき毎日の暮らしの中に取り入れている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日、身体面の状態、言動を蜜に観察し変化のある時は介護記録に残し、申し送りを行う。又ノートにも記載して誰もが把握でき対応出来る様に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族に意向、希望を聞き、カンファレスを行い本人が望む生活が出来るように介護計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に見直しを行っている。急変時の場合は早急に本人、家族に希望などを確認しカンファレスを行い現状に即した計画を新たに作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に添って観察を行い毎日記録を行い情報を共有し、記録を元に介護計画の見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じ受診の付き添いなど柔軟に支援している。又個々の要望にも可能な限り答えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署、ボランティアの方に協力してもらっているが本人の意向がない為文化、教育機関等との協働がない。		利用者の希望や意向がある時はそれぞれの機関に呼びかけていきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	希望時訪問理容サービスを理容協会にお願いしている。現在他サービスの希望者いない。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在利用者全員意向はない。又権利擁護等の必要性がない為協働の機会を設けていない。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望通りかかりつけ医を決定していただき受診されている。現在訪問診療5名、1名医療連携病院外来受診、他受診1名が納得の元受けられている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医受診者1名おり毎月家族が薬の受け取りをしている。生活の様子などは文書などで報告又本人と一緒に介護者も同伴での受診希望時には、一緒に外来受診の支援を行っている。又他者の認知症が進んで居るとき等は医療連携の先生、家族に相談を行い専門医受信が出来るようにしている。		毎日の状態を把握し、担当医、医療連携の看護師等に早急に相談して悪化しないようにしたい。家族にもいち早く知らせていく。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週一回医療連携の看護師が訪問され日常の健康管理に努め、気軽に相談している。又24時間緊急の時に連絡を入れ医療連携を図り看護職との協働に努めている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、家族から話を聞いたり、医療機関と蜜に連絡を取り早期の退院に向け連携を図っている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員との話し合いを時々行っているが今の所職員の不安が多くある。看護師等からも指導を受けたので終身の方の方向性を早い段階で見極めて行き全員で方針を共有していきたい。		現在の所対象者がいないが話し合いの場を設けいつでも支援出来るようにしていく。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族、かかりつけ医と話し合いを行い日々安心して生活が出来き、暮らしがしていけるようにきちんと見極めをしていきたい又急な変化に備えて話し合いを持ちいつでも対応できるようにしていきたい。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	話があるときには、本人に関わる関係者と十分な話し合いを持ち情報交換をしていきダメージのないように協働していく。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉使いには気をつけるように皆で注意をしながら対応している。個人情報についても皆で徹底している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>意思表示が出来る方には、自己決定をしていただき希望に添うようにしている。不可能な方には状況、表情、声かけ、筆談等をもとに自己決定と受け止めている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりの希望、状態、気持ちを配慮しながら毎日を有意義に暮らせるように支援している。職員側の予定もあるが第1に利用者中心に支援している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>訪問理容にてほとんどの方がホームで理髪されている。又娘さんが外泊時や面会時にカットして下さる家族もある。本人の望むように努めている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>出来る方は一緒に準備したり片付けをしている。自分の役割も決まり意欲的にしている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのお酒、飲み物、おやつ、たばこ等を一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>本人からの希望があった時は希望に添っている。タバコ、お酒等の希望なし。おやつ、食事については、ほとんどの方が好き嫌いが無いので毎日工夫しながら楽しんで嗜好している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>全員尿意がありトイレで排泄されているが失敗もあり時間ごとの誘導を行いトイレで気持ちよく排泄出来るように支援している。又オムツが軽減できるようにしている。紙パンツから布パンツ使用に替えられるように見極め替えられる方を増やしていく努力をしている。</p>		<p>紙パンツ使用者が減少するようにしていきたい。</p>
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>曜日、時間帯は決まっているが極力希望を聞きながら支援している。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>日中でも休息したい時は自由にして貰っている。安心して休まれるように好きな場所を日頃から把握して安心できる場所で休めるように支援している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>各自の役割は自然に決まって意欲的に行っている。生活歴、背景、希望などを考慮しながら張り合いがある生活をして頂いている。気晴らしとして行事での外出を計画又散歩などで集落を回り昔を思い出す事、実家近くまで行き安心され戻られ気晴らしが出来た事によりホームでの生活に今以上に張り合いが出るように支援している。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を持っていないと心配で落ち着かなくなる利用者があり自分で管理をされている方もいる。しまい忘れがあるので時々一緒に財布の確認をしている。本人が買いたいものがある時は一緒に買い物に行ったりする事もある。ほとんどの利用者はホームで預かり必要物品などを購入している。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>散歩の希望、買い物などの希望がある時は支障のない限り外に出かけられる様に支援している。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>個人で行きたい所がある時は要望に添うように極力支援しているが時々いきいたい所があるか尋ねるがどこも行きたくないとの返答が返ってくる。家族との外出、外泊もあるが家族状況で外泊が出来ない方にはホーム側で家の方をお願いをしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話を家族に希望された時は掛けて話をして頂いている。 字を書くように時々進めるが利用者の方皆さん拒否する又目が悪い、手が震えるなどの訴えがあり手紙を書くまでいかない。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時は、居室でゆっくり会話ができるようにしている。誰が来ても気軽に訪問出来る様に職員皆で笑顔、挨拶を忘れないように心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加し理解しているので身体拘束をしないケアをしている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は居室、玄関の鍵を掛けることはない。本人が自宅での習慣がある為うち鍵を掛けてしまう利用者もいる。玄関のセンサーを取り付けた為鈴は除去した。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	個々の状態、所在、歩行等把握し昼夜通して安全に生活出来るように配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険物品などは、所定の場所に保管している。個々の状態に合わせ所持できる方には居室にて保管してもらっている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態を把握し未然に防ぐ様に個々の状態に応じ事故防止に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	研修に参加しているが受けられなかった職員には伝達を行い全員が急変や事故発生に備えている。又マニュアルを作成にて緊急発生時に備えている。		全員が対応できるように研修時は交代で研修を受けられる様にしている。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は消防署の協力を得、支持、助言を貰っている。又定期的に訓練を行い、いつ災害がおきても対応出来るようにしている。 地域の方との合同訓練はまだ行っていないが隣近所の方にはお願いをしている。		今秋地域の訓練に参加予定であったが取り消しとなったので来年度には参加したい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	個々のリスクを把握し、対応策などを説明をしている。又色々なリスクが発生してしまった時には家族へ早急に連絡を取り意見、希望を聞き対応している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日熱、血圧、脈、状態観察を行い異常の早期発見に努めている。体調の変化時や異変時には職員全員が情報の共用出来るように申し送りを密に行う又記録に残して対応している。 又協力病院、家族に連絡し指示を伺っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している内容についてはだいたい把握されてきている。薬の管理はホーム側で行い服薬時には手渡しにて支援している。症状についてはほとんどの方が薬が変更はないが観察している。 受診にて血液検査結果で変更となるので指示通り服薬支援している。		服用者のリストを作りいつでも見られる様に綴ってある。用法や用量について細かく理解していきたい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個々の排便間隔を把握し便秘薬がある方には服用しているがない方にはお腹のマッサージ等を行っている。又毎日の水分量を決め多く取るようにしている。乳製品、果物などが毎日摂れる様に工夫している。身体の働きかけも行っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後一人ひとりに応じた口腔ケアをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じた食事の分量で摂取している又水分についても分量を決め毎日チェックを行っている。不足時は飲み物の工夫している。カロリー計算は配食業者が行い栄養バランスを図っている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の研修会に参加して職員全員が留意して対応している。食前には手洗いを徹底し感染予防に努めている。入浴時には皮膚の観察を行い早期発見に努め状態変化時には医療機関との連携を図り対応している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	フキン、台フキン、まな板等毎日キッチンハイター浸けを行い衛生管理に努めている。食材については翌日の分が前日に配達される為すぐに冷蔵庫、冷凍庫に保存して鮮度を保っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の庭には季節の草花が植えてあり季節感が満喫でき和まれる雰囲気となっている。又ポーチにベンチを置き誰でも腰を掛けて会話ができるようにしている。今秋には玄関前に干し柿を吊るし家庭的で誰でも落ち着ける工夫をしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には誰でも好きな時に出入りできるようになっている。廊下、ホールの壁には皆で作ったはり絵などを貼って楽しんでいる。季節毎の花をテーブルに飾り季節感を味わってもらっている。トイレ、浴室は広いスペースとなっておりゆったりと使える。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	天気の良い日にはウッドデッキに出て景色を眺めたりしている又中庭に出散歩をされる。ホーム内ではソファに座ったり横になったり自由に過ごしている。廊下の隅で一人で日向ぼっこ等をしていたり、気にあった同士で談笑して過ごす場となっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時自宅での使い慣れたものを持って来て頂いたのでは安心して生活が出来手いる。本人が作った物等を貼り楽しめるようにしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	気になる匂いには気を配り換気の為頻回に訪室し配慮している。又本人希望時には消臭剤で対応する事もある。		
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差はなく廊下に手すりがあり歩行不安定な方は安全に移動されている。廊下には一切妨げになるものを置かず広々となっており有意義に活用している(個人リハビリ)		一箇所の避難口に段差があったが改修工事行い解消となった。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室、トイレなどにはわかりやすく表示をしている。一人ひとりの力を把握し混乱が大きくなるように又失敗が重ならないように見守りをして自分で出来る事は行って貰い自立した生活を送れる様に支援している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に畑があり野菜等植え収穫時期になると勝手に取ってきたりして楽しんでいる。又庭での散歩もされ気分転換を図っている。周りには保育園があり、声をかけあったりして楽しまれている。ウッドデッキでは天気の良い日にはランチを食べ皆で活用している。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

毎日利用者様が安心して生活が出来るように職員の数も多く配置されゆとりを持って支援を行っています又環境も良く海、山に囲まれ自然との中で四季を感じながら生活を送っています。利用者様、職員も皆で協力をしながら生き生きとした生活をしており穏やかな表情をしています。